

【保健研究センター 8月だより】

～ヘルパンギーナの原因ウイルスについて～

現在、本県では手足口病の患者が警報レベルに達していますが、手足口病と同じエンテロウイルスが原因となる、ヘルパンギーナの患者数も増加してきました。

今月のセンターだよりでは、今夏のヘルパンギーナの原因ウイルスについてお知らせします。

ヘルパンギーナの原因ウイルスの経年変化について

ヘルパンギーナの原因ウイルスは、コクサッキーA群のウイルスで2、3、4、5、6、10型の血清型が多いとされています。流行する血清型は毎年異なりますが、なかでも4型がもっとも多いとされており、本県でも表1に示したとおり1999年、2002年、2004年には4型を多く検出しました。奈良県では手足口病患者から多く検出しているエンテロウイルス71型は、ヘルパンギーナ患者からはこれまで確認していません。

表1. 本県のヘルパンギーナ患者検体から検出したエンテロウイルス(1999-2013)

ウイルス	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
CA 2	4		10							3				2	
CA 4	26			15	1	17		6		1				2	
CA 5				2					1					2	
CA 6	16		3		7		11			3			2		1
CA 8														2	3
CA 10			6		15		2		3		1				
CA 16				1						1					
CB 1		1				2									
CB 3		1												1	
CB 4	1		1		1										
CB 5			8			1				2					
E 13				2											
計	47	2	28	20	24	20	13	6	4	10	1	0	2	9	4

CA:コクサッキーウイルスA群 CB:コクサッキーウイルスB群 E:エコーウイルス

今夏のヘルパンギーナの状況について

現在までのところ、全国の患者報告数は例年より少ないですが、コクサッキーウイルスA群8型が最も多く検出されています。

奈良県でもコクサッキーウイルスA群8型を複数検出しており、同様の傾向にあると考えられます(表2)。

近年、搬入されるヘルパンギーナ患者検

体の減少に伴い、主因となるウイルスがとらえにくくなっています。当センターではコクサッキーA群のウイルスに感受性が高いとされている培養細胞に変更するなど、検出方法を改善中です。

病原体定点医療機関の先生方には、引き続き検体採取のご協力の程よろしくお願い申し上げます。

(ウイルス・疫学情報チーム 米田 記)

保健研究センター8月だより

表2. 今夏のヘルパンギーナ患者の遺伝子検査結果(8月16日現在)

検体採取日	年齢	エンテロウイルス遺伝子検査結果
7月1日	1歳1ヶ月	コクサッキーウイルスA群6型
7月5日	0歳5ヶ月	陰性
7月20日	1歳8ヶ月	コクサッキーウイルスA群8型
7月23日	0歳7ヶ月	コクサッキーウイルスA群8型
7月24日	1歳3ヶ月	陰性
8月1日	2歳11ヶ月	陰性
8月2日	1歳9ヶ月	コクサッキーウイルスA群8型